

埼玉県退職校長会
大里支部会報

おとさと

第51号

(題字は支部長)
令和3年8月1日
発行者
内田 眞弘

あいさつ

「先生！如何お過ごしですか？」

支部長 内田 眞弘



コロナ禍により、人との接触を抑制せざるを得ない自

粛の日々が続いています。本会も昨年度は総会、教育研究協議会等の主な活動が中止となっていました。

このような中、凶らずも支部長に選任されました。大里支部長は熊谷（二期）↓深谷↓寄居というローテーションで、各班の会長が兼務することが慣例となっており、今期は新井俊一前支部長に引き続き、熊谷班の会長が兼務となります。

熊谷班での役員選考会において私の名前が出たとき、私は県外に住んでいるし、そんな器では無いので強く固辞しましたが、T先生

から「今はどこに住んでいるからなどと言っている時代ではありませんよ」との一言で、何とも釈明できずに、このようなことに相成りました。元より浅学非才、支部長としてやっていけるか不安を感じておりますが、選任された以上は、会員の皆様のご支援・ご協力を頼りに全力で取り組むほかないと決意しております。

三十五年程前、県立北教育センターに勤務していた頃、大里には若い先生方を会員とする「大里社会科研究会」がありました。私も参加させていただきましたが、毎年、合宿があり、教育や社会科指導について熱く語りあったものでした。深谷を舞台に心意気はまさしく大河ドラマ「青天を衝け」の体でした。会員諸氏は、大いに力を発揮し活躍され、現在は我が退職校長会の仲間となっております。これが大里です。

さて、コロナ禍の現状では、顔を合わせることは難しい状況です。それに代わる何かを考えていかな

ければなりません。具体的には全会員の「近況報告集」を作成、配布することは如何でしょうか。これにより、会員相互の情報を得、絆を深められると思います。今後、実現に向け役員会で協議します。ワクチン接種が進み、安寧の日々が早く戻ってくることを強く願ひ、あいさつといたします。

大里支部総会 概要

令和三年度大里支部総会が二年ぶりに開催された。参加者は三十九名。全員マスク姿。座席はソーシャルディスタンスを保って着席。

十時に大岡副支部長の開会の言葉が始まり、新井支部長のあいさつ。続いて、昨年度御逝去された十二名の方々への黙祷。叙勲者皆様への記念品贈呈、新会員紹介とセレモニーが続く。

議事では、決算報告で多額の残金について、昨年度、県総会を大里で開催するときの運営費半額負担の予定が全額県が負担することとなったことによる説明。さらに、十年後、県総会が大里会場と予定されているので残金はその準備金としたいと補足説明があり、

承認された。

今年度は役員改選の年にあたり、新井支部長から内田新支部長へと引き継がれた。新井前支部長は退任にあたり「自分は『大里は一つ』という意識で取り組んで来た。特に印象に残っているのは、県総会開催に向かつて一丸となって準備。大里の底力を感じた。」等の話をされた。一方、内田新支部長の就任のあいさつでは、「皆さんの力を借りて、どなたもつなかりを感じ合うことのできるものを作り上げていきたい。」と新支部長としての抱負を述べられた。

その後、昨年度の反省に立ち、総会に関する規約改正案が提出された。原案どおり承認され、総会開催が難しいときには、理事会や役員会をもって代替できることとなった。(文責 吉岡正司)



随想

ICTと授業

熊谷東 木島 直樹

「GIGAスクール構想」によるICT環境整備が、コロナ禍のため三年の計画が一年に短縮され、学校現場において急速に進められている。新学習指導要領の総則において、情報活用能力が言語活用能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられている。そして、各教科の目標や内容においても、ICTの活用を推進することが求められている。

国が社会のデジタル化を進め、スマートフォンは多くの国民が保有する機器である。現在の小学生は、生まれた時からスマホが身近にあり、操作に慣れている児童生徒が多い。デジタル教科書や電子黒板を使用した授業は、児童生徒の反応もよい。さらに、「一人一台」のタブレットの活用により、調べ学習・ドリル学習・レポートの作成など、学習が多面的に広がる事が予想される。

一方で、実物に触れることを授業の中で軽視してはならない。だる



う。現在、私は、再任用教諭として理科や体育の授業を担当している。五年生の理科では、「植物の発芽と成長」「メダカの誕生」を学習している。

畑の土を割って発芽し、日々成長する植物の生命力。解剖顕微鏡を通して見られる、メダカの卵の変化。その血流や小さな心臓の鼓動など。実際に物を見て、感動する児童が多い。授業を行う中で、これからも実物に触れ、児童の五感に働きかけるような授業も大切にしていきたい。

タブレット等を活用する学習と教科書・ノート等の紙媒体を活用する学習でも、それぞれ長所・短所がある。今後、学習活動に合わせ選択していくことが、重要ではないだろうか。

「煮ぼうとう」に学ぶ

熊谷西 笠原 健司

先日、今話題の『論語の里』を旅してきました。旧渋沢邸「中の家」では、和装姿のアンドロイド渋沢栄一翁と対面しました。

「中の家」の庭を散策し、池に泳ぐ鯉に声をかければ、ゆっくりと尾ひれを交わしながら、通用門先の古民家を改装したお店を案内してくれました。

栄一翁が好んだという郷里の野菜がたくさん入った醤油味の「煮ぼうとう」を出してくれるお店でした。お店の建物は、旧渋沢家の第一番頭の家だったそうです。

開店時刻早々に玄関の引き戸を開け、靴を脱いで上がり端をあらると、正面の床間に掛け軸が下がっていました。

「天意重夕陽 人間貴晚晴」

渋沢翁が、「青い目の人形」の日米の人形交換に努めていた頃に帰郷して、第一番頭へ贈った八十八歳の時の書だそうです。

「人の一生に、おろそかにしてよいという時はない。一分一秒といえども貴重な時間に相違ないが、その中でも人間は晩年がもっとも大切ではないかと思う。若い時に欠点があった人でも、晩年が美しくればその人の価値は上がるものである。」という意味の書でした。現代を生きる私にも、心に響く一冊の書でした。

「渋沢栄一翁夢七訓」と書かれた箸袋も、また、自身の襟を正すひと時を感じながら、「煮ぼうとう」に舌づつみを打って、お店を出ました。

渋沢栄一翁が、第一番頭へ贈った書を通して、「忠恕の精神（真心と思いやりの精神）」を感じました。私のこれからの人生において、たくさんのことを「煮ぼうとう」に学ぶことができ、心が満たされた一日でした。

三つの挑戦

相談・自転車・空

熊谷中央 飯田 明彦

「話を聴いてもらって、少し気持ちが楽になりました」相談者の方から、帰りがけにこんな一言をいただくことホッとします。現在、熊谷市の生活相談員として勤務させていた、だいたいいる。学校現場と異なり、相談内容は多岐に渡る。真摯に相談者の話に耳を傾けようと臨むが、つい自分の感情や価値観が出てきてしまい、相手の立場に立ちきれないことも多い。自分を脇に置いて、相手を理解するため「スイッチ」があるといいなと思っている。よき受け手になるために研修、そして挑戦の日々である。

二つ目の挑戦は、自転車のカスタムである。学生時代の思い出を

一つ。富良野近くの小さな駅で休んでいた時、遊んでいた子どもたちが自転車と大きな荷物、日焼けした私を見て、「家出してきたの？」と。そう見えるのか、と苦笑しながらも子どもたちと楽しい時間を過ごした。当時は自分で整備し長距離を走ったものだが、今はシヨップ任せ。そこで、工具を揃えて整備を復活。コロナ禍が落ち着いたらもう一度、聖地しまなみ海道を走りたいと思っている。

「少しだけ先の未来がわかる」退職後の目標として、氣象予報士に挑戦中である。合格率5%、高校物理に悪戦苦闘だが、理解が深まってくると学ぶことが楽しくなるから不思議である。今年の夏には少し合格に近づきたいと思っている。いつか、地域の子どもたちにお天気教室が開けるといいなと、空を見上げながら夢をいだいている。

プロスキーヤー三浦雄一郎さんの「目標をもつのに遅いことはない。自分の“エベレスト”を探そう」という言葉に力を得て、三つの目標に挑戦中である。



キジの雄叫び

整地作業から想いごと

熊谷南 松葉 定市

父親の代から重宝に使わせていただいていた隣の家の畑を返すことになり、春先から整地作業に取り掛かることになった。

その畑は我が家の東隣にあり、ナスやキュウリなどの夏野菜をはじめ、秋には大根、白菜、ニンジン、キャベツなどを育て、採りたての野菜を味わうことができた。

また、ブルーベリーや甘夏ミカン、びつくりグミ、金柑などの果実の恵みにあやかるところもできたし、河津桜の淡いピンクの花を楽しませてもらっていた。

野菜は収穫が済めば整地できるが樹木はそんなわけにはいかない。移植できそうな低木類は生かすことにし、それ以外はすべて伐採することにした。記念樹等、想いの詰まった樹木を切り捨てることにはいささかの抵抗もあったが…。

梅、ヤマボウシ、楓、高野槇等、十数本。一日一本ずつ、気長にやろうと作業を始めた。のこぎりでの剪定作業は毎年やっていたので、さほど苦にはならなかった。

しかし、抜根はそうはいかない。植物にとって命である水をいっぱい吸い上げるとともに、強風にも

耐えられる幹を支える根である。太く、深く張りめぐらされている。人力では到底無理なこと。直径が20cmもの太い幹の伐採と併せ、業者者に依頼することにした。

この三月で、六年間務めた自治会長をようやく、退任できることになったが、吉岡自主防犯パトロール会長やスクールガードリーダーの職を与えられ、子どもたちの見守り活動に取り組んでいる。

登校時の子ども達の様子を見るにつけ、人としての根づくりともいえる今を、大切に生きてほしい、整地作業をとおして、そんなことを思った。

私と児童福祉

熊谷北 矢嶋 廣明

退職後、熊谷市の野原教育長の推薦を受け、熊谷市福祉部こども課の家庭児童相談員になった。

実は、退職後は、専門である図工美術に関係する職か、児童福祉に関わりたかと思っていたので、願ってもない事だった。

なぜ、専門外の児童福祉に関わったかと言おうと、以前に、「埼玉学園」内の上尾市立東中学校向原分校・東小学校向原分校の教頭を経験したからである。

「埼玉学園」は、埼玉県福祉部

管轄の県立児童自立支援施設である。平成十年の児童福祉法改正により、施設長に入園児童の就学義務が課せられた。そこで、県福祉部、県教育局、上尾市教育委員会が三年の協議を経てできたのが、前述の分校、分教室である。

私が勤務していた頃は、非行理由の入園児童は二割弱、他は被虐待児童で概ね発達障害があった。入園者は、九歳から十八歳未満の児童で定員九十名。その内の義務教育を学校職員が福祉職員の応援を得て実施している。児童は施設内の七つの寮から学校がある管理棟に寮母が送って登校し、午後四時に職員が送って寮に下校する。

教頭は、本務校に常駐する校長に代わって学校を運営する。入園時、退園時の対応や児相からの情報の把握、学校生活時のトラブルの対応と親代わりの寮長との連絡調整など、多岐にわたった。児童福祉における教育の役割の重要性を痛感する貴重な経験となった。

家庭児童相談員は、子育て支援、児童虐待対応など児童福祉の相談支援担当である。私は、今までの経験を活かし、学校（教育）とこども課や児相（児童福祉）のつなぎ役となるべく、福祉的支援が必要な児童のため日々精進している。

我家の庭でシイタケ

深谷北 諏佐 一夫

猫の額のような狭い庭であるが春の芽吹き、新緑、紅葉などの四季折々の変化がある雑木の庭を作りたいと思いつながら梅、柿、サクラランボ、カリン、キンカン、ミカンなどの果樹、マンサク、椿、ロウバイなどの花木、そしてカエデ、モミジ、コナラ、クヌギ、ブナなどの雑木が雑然としている。

コナラ、クヌギなどの雑木は形の良いどんぐりを庭の所々に埋けて芽が出て大きくなり、孫と一緒にミニクワガタの森でも作りたいと楽しみにしていたが虫が苦手ということと断念した。しかし、雑木は年々大きくなり自分一人では手に負えなくなると思い、終活を考えて切ることにした。

NHKに趣味の園芸「やさいの時間」で「キノコ栽培」の放映がされたことを思い出しながら十二月紅葉も終わり、葉がすっかり落ちたころ切り倒してしばらくそのままにして置き、切り口にひび割れができてきたので長さ九十センチ位に切り、井桁に組んで乾燥させた。

四月、ドリルで四センチ間隔に穴を開けシイタケの駒菌を植え付

け、直接日光が当たらない庭の隅に仮伏せをし、時々水をかけて湿気を保つようにしてきた。

梅雨前に本伏せをして遮光ネットとで覆ったが特に夏場は猛暑日が続き失敗したかと諦めかけていた。

新型コロ
ナウイルス
禍の五月、
遮光ネット
下のシイタ
ケ発見！

妻の煮物
料理の一品
となった。



日々是好日

深谷中 平井 慶益

退職をした二〇一九年の四月から日記をつけることにした。その日の新聞のトップニュース、出来事などを書いていく。今読み返してみると、二〇一九年は明るい話題が多かった。天皇陛下が即位し、「令和」に改元され、ラグビーワールド日本大会で、日本が八強になり日本中が盛り上がった。大河ドラマ「青天を衝け」の主人公渋沢栄一が新一万円になるという嬉しい発表もあった。

ところが二〇二〇年オリンピック

クイヤーの話題は一変してしまい、新型コロナウイルス感染拡大の二ニュースばかりとなった。学校教育にも大きな影響があり、小学校や高校が一斉休校となり、さらに、修学旅行、体育祭など多くの学校行事が中止となった。また、東京五輪・パラリンピックが延期された。その後も新型コロナウイルス感染拡大の二ニュースが毎日報道され続けている。

今まで経験したことのない状況で、改めて私たちは本当に様々な問題がからみあう複雑な社会で暮らしているのを感じている。マスクやSNSなどで飛び交う議論を見てみるといった何が正しいのかわからないことばかりだ。一般的には声の大きい人の意見や目立つ意見、面白い意見、劇場型の感情に訴える意見に飛びついてしまう傾向を感じる。そういった意見に引きずられず、正しい判断ができるようになるにはどうしたらいいのか。そのようなことを考えることが多くなった。先日読んだ出口治明先生の本の「タテ・ヨコ・算数」の考え方がヒントを与えてくれた。この本との出会いのように、退職してじっくりと新聞や本を読む時間ができたことが今一番うれしいことだ。

花を追って

深谷中 和田 隆

退職して早四年目となりました。今年は、三日間の勤務で四人の初任者を担当しています。

早春を迎え、花々が咲き始める頃になると、一番の「楽しみ」が始まります。梅の花が咲き、あみず、桃、桜が咲き終わるころには、山々に水芭蕉が開花し始めます。

白馬の姫川源流を皮切りに、居谷里湿原、鬼無里の奥裾花自然園、斑尾高原沼の原湿原、戸隠高原・・・と水芭蕉を追って様々な場所を訪ね歩くことが毎年の大きな「楽しみ」になっています。

爽やかな風、小鳥のさえずり、豊かな森と水に恵まれた湿原に、水芭蕉とともにザゼンソウやリュウキンカが残雪と共演する姿は見事です。今まで、まるで花に興味になかった私ですが、家内が小さな庭に様々な花を育てているのを見ていていつの間にか、影響され「楽しみ」の一つになりました。

これからポピー・バラ・ニッコウキスゲ・・・と、まだまだ「楽しみ」は続きます。何度訪れても新しい発見があり飽きることはありません。

夏には、避暑を兼ねながら有名

な湿原だけでなくほとんど知られていないような小さな湿原を巡り、可憐な高山植物を探します。来年のスタートは、今年行くことができなかつた爪木崎の野水仙の群生を見に行こうと予定しています。伊豆の透明な海、青い空、灯台の裾野に広がる野水仙とアロエの花の景色を想像すると今からワクワクしています。

これからも「自然」と「花」をテーマに沢山の「楽しみ」を見つけ、潤いのある充実した時間を過ごしていこうと思っています。

ある教員の退職で学んだこと

寄居 保泉 清之

或る日の朝、突然「電車から降りられませんでした。今、終着駅にいます。」と泣き声混じりの電話を受けた。二十代後半の臨任の教員からでした。

すぐに教頭に迎えに行ってもらい話を聞くと「生徒と何かあったわけではないのですが、生徒が怖いんです」と訴えた。再発。日頃から授業や部活動での指導の様子を見ていたが、そのような姿は欠片も見られなかつたので、私自身驚くとともに、教職員のメンタルの把握の甘さを痛感した。結局そ

の教員は教壇を去りました。

昔も今も変わりませんが、教員は多くのストレッサーの中で教育に携わっています。そして今、コロナ対応という新たな要因が加わっています。現在、六名の初任者と関わる中で、何より心配なのがメンタルヘルスです。ICT機器を使い、授業や学級事務をこなしているように見えるが、ゆとりが見られず、遅くまで仕事をしている姿を見ます。教員の仕事はネット等では検索できない部分が沢山あります。必然的に同僚や先輩教員に聞く事が必要となりますが、人に聞くという事に慣れないように感じます。そんな時、私は初任者に「聞くは一時の恥という諺を知っていますか。でも聞くことを恥と捉えることはおかしいですよ。」と言います。分からないことがあれば「ねえ、教えて。」聞かれた人は「いいよ。」と教員にも、児童生徒にも必要なことだと考えます。

振り返ると、臨任の退職を機に、それまで以上に教職員のメンタルを気遣い、細やかに対応し、貴重な人材を失うことの無いように努めるようになったと思います。

地区だより

快慶作の仏像か

鎌倉時代(熊谷市代)の阿弥陀如来立像

熊谷中央 小林 明

鎌倉時代を代表する仏師、快慶。快慶作と見られる阿弥陀如来立像が安置されていた東善寺御住職は次のように語った。「平成三十一年二月の新聞報道から約一年間は、県内外から訪れる人や電話の問い合わせが相次いだ」本堂の西奥にあったあの小さな仏像が、とても貴重なものであったことに驚いている」

仏像は高さ69cm。専門家によると、仏像の螺髪（うねり）の刻み、目鼻立ち、女性的で繊細かつシャープな表情、衣のひだなどの表現等、快慶の一連の如来立像に共通する特徴が認められたという。

X線CT(コン

ピューター断層撮

影)の結果では、仏像の内部は空洞になっていて、胎内納入品として、古文書らしい折りた

たまれた紙や髪の毛の束などが入っていた。

ただ、謎もある。快慶の阿弥陀如来立像はこれまで全国で十四体見つかつているが、いずれも三尺(80〜90cm)程度なのに、大きさが69cmと小さい。東善寺開山は一六〇〇年前後と伝えられており、なぜそこに一二〇〇年代の快慶の仏像が安置されていたのか。年代が合わず、経緯も不明である。

今後、仏像の解体調査による古文書の分解、作者を示す墨書(サイン)の確認等で快慶作の仏像かを判断するという。

快慶が手掛けた仏像はとても優れており、その数は極めて少なく、県内初の国宝級といわれる所以である。歴史へのロマンと国宝指定の期待は大きくふくらむ。



東善寺 阿弥陀如来立像

(資料提供 熊谷市史編さん室)

新入会員の声

よんごうお願ひいたしました

熊谷中央 新井 英和

多くの方々に支えられ、教職人生を全うすることができました。特に、諸先輩方のご指導やご支援には感謝の気持ちでいっぱいです。今年から、退職校長会に入会させていただきます。よろしくお願ひいたします。

現在は、再任用教員として小学校の外国語教育に携わり、日々教育活動に喜びを感じております。諸先生方には、引き続き、ご指導よろしくお願ひいたします。

笑顔のために

熊谷南 井出 徹

本年度新入会員となりました。よろしくお願ひいたします。

五月から、観察実験支援員として週三日の勤務ですが、子どもたちに直接指導をする機会をいただきました。イオンモデルなどでわずかな工夫をすることにより、「わかった!」という笑顔から、教師としての本意を思い出し、

指導の改善を続けております。改めて教えることの喜びを感じている日々を送っています。

めいどのびきり

熊谷東 外村 浩

皆様のお陰で無事定年退職することができました。ありがとうございます。今年度から退職校長会に入会させていただきます。よろしくお願ひいたします。

さて、四月より体育をとおして児童生徒に関わる仕事をさせていただいております。先日ある児童に声を掛けられました。「こんにちは。この前〇〇小に来ましたよね」と。身の引き締まる思いがしました。全力を尽くします。

よんごうお願ひいたしました

熊谷中央 加松 浩

三月に熊谷市立富士見中学校を退職し、退職校長会へ入会させていただきました。在職中は、たくさん先輩方に支えられ、助けていただき、全うすることができました。本当にありがとうございます。

現在は、新型コロナウイルス感染症への予防に万全の注意を払い

ながら、県庁まで通っております。これからもご指導のほどよろしくお願ひいたします。

決意を新たに

熊谷東 秋元 敏行

在職中は、皆様から温かいご指導を賜り、ありがとうございます。心から感謝申し上げます。

四月からは、再任用校長として新しい学校に勤務しております。重責ではありますが、学校と家庭と地域とが同一歩調で進む「協育」、心と心が響きあう「響育」、お互いがともに育つ「共育」を目指していこうと思えます。引き続きご指導の程、よろしくお願ひいたします。

渋沢栄一翁の心を受け継ぐ

深谷北 新井 英男

三十八年間の教職をコロナ禍の中で終え、退職いたしました。今後は、皆様方に、人生の歩み方をご指導いただきながら、充実した毎日を送りたいと思っております。現在、再任用校長として引き続き深谷小でかわいい子供たちと過ごしております。渋沢栄一翁で盛り上げる深谷で、「夢とこころざし」「まごころ」と思いやり「の栄一翁の心を子供たちに伝え、共に受け継いでいこうと思えます。

めいどがよんごうお願ひいたしました

深谷北 黒田 智隆

三十八年間の教職生活を無事に終え、定年退職となりました。これもひとえに先輩方をはじめ、多くの皆様方のおかげと感謝し、厚く御礼を申し上げます。さて、四月からは縁あって、東京福祉大学に勤務し、学生たちを相手に教鞭をとる機会を与えられました。心機一転、新たなスタートを切ったところでもあります。先輩方には、引き続きご指導いただきたく、また今後とも末永くよろしくお願ひ申し上げます。



ムササビが巣穴から出るところ

「生涯一書生」で頑張ります

深谷北 白井 裕一

三十八年間の教職を経てこの春、定年退職いたしました。深谷市内の小学校長として八年間勤務させていただいたことに心から感謝いたします。

郷土の偉人、洪沢栄一翁の言葉、「四十、五十は洩垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になつて迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」の言葉を胸に刻みご縁のある深谷市の幼稚園でお世話になります。「生涯一書生」で頑張ります。

よろこぶお願いいたします

深谷南 茂木 隆資

皆様のおかげで、深谷市立花園小学校で教職三十八年、三校目の校長としての務めを終え、現在、再任用で深谷市立幡羅中学校を拠点校とし、六名の前途有望な新任者の研修のお手伝いをしています。時には花や風景の写真を撮ることを心の憩いとし、充実した毎日をお過ごししております。今まで退職校長会の諸先輩方からいただいたご指導に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

再任用校長として

深谷中 黒澤 正之

この度、退職校長会大里支部に入会させて頂くことになりました。現在、再任用校長として三尻中学校にお世話になっております。定年退職とは「まだ遠い未来」と思っておりますが、現実となりました。何をしたらよいのか、今の自分に何ができるのか、暗中模索の状態です。頭で考えるのではなく身体を使って、進むべき道を見つけて参りたいと思います。ご指導の程よろしくお願い致します。

三十八年間で越えて

深谷北 島崎 祐子

新たな生活が始まりました。改めて諸先輩方のご指導に感謝申し上げます。特に最後の一年間はコロナ禍で「学校が学力保障の場だけでなく、人と人との関わりの中でなくてはならない場所である」ことを再認識しました。これからも予測できないことに対応しながら、夢や志を育む教育を通して子供達や先生方、保護者・地域の為に尽力して参ります。今後ともご指導を宜しく願います。

よろこぶお願いいたします

寄居 関根 光男

寄居町立城南中学校を最後に、三十五年間の教職生活を無事に終え、退職校長会のお仲間に加えていただくことになりました。退職後、四月一日から生まれ育った寄居町で教育行政に携わらせていただきますが、故郷、寄居町のために誠心誠意努力する所存です。諸先輩方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

高齢者叙勲 (瑞宝双光章)

受章者 (班順、生年月日順)

- | | |
|-------|-------|
| 熊谷班 | 栗原保夫様 |
| 並木茂様 | |
| 深谷班 | 青木満守様 |
| 瀨下裕仁様 | |
| 圓岡茂夫様 | |

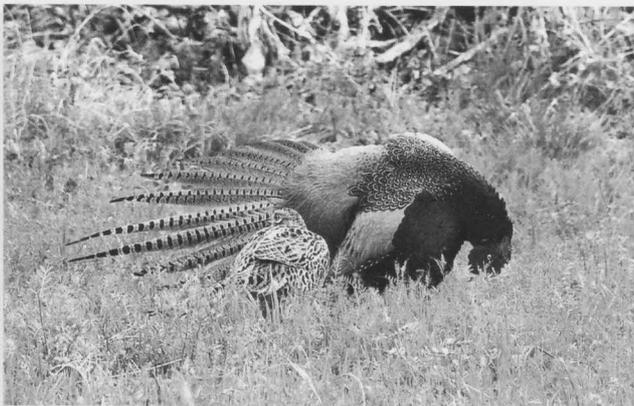
事務局だより

幹事 鶴間 信好

十一月九日に妻沼中央公民館大ホールで、今年度の大里地方教育推進協議会を実施する予定です。

退職校長会では角田光男さんが「退職後、学ぶことのみ多かりき」のテーマで、また、熊谷市立桜木小学校長の堀川大輔さんが学力向上の取り組みを発表して下さいます。

なお、例年九月に理事会とセツトで実施してきた研修会は今年も中止いたします。



キジの求愛行動 (頭を下げ尾羽を広げてメスに見せる行動)



俳句

俳句を生きる

熊谷東 塚本 喜一郎

ためらうも色めくもまた桜かな

虫喰ひのセーター 牛乳ゴクリ

夕刊の薄き手応え 春惜しむ

秒針の刻む一秒 春立ちぬ

桜吹雪深く踏み込むペダルより

懐かしむ風景

熊谷南 原口 一明

マッチする 桜赤松 おぼろ月

久々に 巡り会えた れんげ畑

南かぜ 屋敷森より こいのぼり

遠雷に 急ぎ取り込む 麦の束

プールより 歓声上がる

梅雨晴間

夏立ちぬ

熊谷北 根橋 文武

半そでに 白いマスクの 登校児

紫陽花や 妻と二人の 図書館に

夏めくや 「ただ今」の声 二階まで

夏立ちぬ 孫十一の したり顔

贈られし デッキキエアの夏涼し

春から初夏へ

深谷北 吉井 恵美子

リホームの足場かすめて初つばめ

足裏で筍さがす老夫婦

ブラックと言われし職場の花満開

リモートの宴静かに春惜む

梅雨寒やひそひそ話す客二人

川柳

老いの虚言

熊谷中央 角田 茂男

皆美人どうぞマスクはその儘で

たおやかな音無し川は水深し

久々の胸のトキメキ不整脈

恒例を闇に葬る新コロナ

夫婦間欲しい品詞は接続詞

短歌

雉子

寄居 木島 千恵

膝を病む吾を誘ふか草地より

小綬鶏鳴けり

「ちよつとこい」とぞ

かんだかき一声あげて草はらに

雉子の番が寄り添ひあゆむ

美しき羽根を雉子は大きく

ひろげつつ

雌にアピールしきりになせり



キジのペア

写真説明

写真は、写真同好会木島宏先生より提供いただきました。

キジは自宅近くで撮影。ムササビは夜行性のため、日没後三十分程待たないと巣穴から出て来ず、撮影にはご苦労されたそうです。

編集後記

多くの会員の方々のご協力により、ここに会報「おとさと」第五十一号をお届けいたします。

心のこもった原稿、貴重な写真をご寄稿くださいました皆様方に対して、心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの感染がなかなか収束せず、会員の皆様方には、自粛や様々な制限で、何かと気の重い日々をお送りかと存じますが、この会報を通して、人との繋がりや前向きな心を改めてお持ちいただければ幸いです。

今後とも、広報部の活動にご理解とご協力を、よろしく願います。

令和3年度 広報部員	裕己 一明 史明 明敦 伸 郁慎 裕一
	島村 尻林 山口 田野 福松 沼小 瀧原 飯栗 鴻

埼玉県退職校長会大里支部会報

(第五十一号)

発行 令和三年八月一日

発行者 支部長 内田 眞弘

印刷所 株式会社 博文社

熊谷市本石一―一三四

〇四八(五二)三〇六三